

2024年度日本国際保険学校（ISJ）上級コースが開催されました

一般社団法人 日本損害保険協会（会長：新納 啓介）では、日本国際保険学校（ISJ）について、2024年度の上級コースは「損害保険市場における持続可能な成長戦略の策定」をテーマに開催しました。

新型コロナウイルスの影響により、ISJは2020年より全てのプログラムをオンラインで開催していましたが、昨年度に引き続き、本年度は東アジア13地域24名の参加者を迎えて、オンライン1週間（5月29日～6月4日）と対面1週間（6月12日～6月18日）を組み合わせたハイブリッド方式で開催しました。

オンラインでの開講式で、当協会の坂本仁一常務理事が主催者を代表して挨拶を行い、「自然災害や地政学的な事件、デジタル技術革新などに伴い、多岐にわたって増大するリスクへの対応が求められており、参加者同士での取り組みの共有、意見交換、論議を通じて、東アジア各地域の損害保険業界や保険会社をリードする持続可能な成長戦略の策定に応用していただきたい」と期待を寄せました。

対面での開講式では、当協会の大知久一専務理事が主催者を代表して歓迎の挨拶を行い、参加者に対して「損害保険市場を取り巻く環境が目まぐるしく変化する状況下で、防災・減災への取り組みや、安心安全の提供という保険が果たす機能の重要性が再認識されている」と述べ、社会課題の解決に向けて、東アジア域内での議論や連携の強化を図りながら、国民生活や経済活動を支える新たな挑戦をしていくことがますます重要になってきていることを強調しました。

講師各位には、メインテーマに沿った講義を実施いただき、多くの講義で参加者から寄せられた質の高い質問に対して、的確かつ丁寧な質疑応答を行っていただくことで、損害保険に関する参加者のより深い理解を促すことにつながりました。

参加者からは「オンラインと対面方式の活用による、日本の損害保険業界を牽引する専門家による講義と没入型のワークショップの融合を通じて、未来につながる学びを得ることができた」、「プロテクションギャップ等の東アジア共通の課題を解決するために各地域が協力することが重要だと理解できたため、ここでの友情をこれからも大切にしていきたい」との声が寄せられ、東アジア各地域の損害保険業界についての知見を高める学びの場として、また、地域を超えた参加者全員のネットワーク構築の場として、有意義なプログラムとなりました。

最終日の修了式



日本国際保険学校（ISJ：Insurance School (non-life) of Japan）

- 国連貿易開発会議（UNCTAD：United Nations Conference on Trade and Development）の勧告および東アジア保険会議（EAIC：East Asian Insurance Congress）の要請を受け、東アジア地域の損保業界に対して行う海外技術援助研修プログラム。
- 1972年に一般コース、1991年に上級コースを開講し、これまでに一般・上級コースでのべ2,300名以上の卒業生を輩出している。